

本日はこのような機会を頂きありがとうございました。

私は川辺川ダム建設に対し反対の立場から意見を述べさせていただきたいと思います。

川の流れを堰き止める障害物がある所には澱みができます。それは誰もが否定しようもない事実です。そしてそれは障害物の大小に関わらず起こります。

澱みが出来るとそこには有機物・無機物が溜まり濁りやヘドロ状になったものが必ず発生します。

私が大変驚いたのは五木村で開催された住民説明会において国交相の説明で、「有機物は含まれないからヘドロは発生しない」とはっきり仰いました。球磨川に流れる川の水は超純水なのでしょうか？

このような出鱈目な言い訳を聞いた瞬間、説明会で話されたことは全て「茶番」であり「ダム建設ありき」だと認識しました。真摯に住民と球磨川に向き合う気はないのだと感じました。

ダム建設時発生する産業廃棄物に関して質問をしましたが、全くお答えになっていませんでした。更問いをしようとしても質疑は途中で打ち切られました。結局今日に至るまで一度もご回答はいただけていません。そのことが国交相の姿勢を表していると思います。

次に驚いたのは試験冠水時水に沈んでしまうつづらせどうについてあまりにも生態系を軽んじる見解に呆れてしまいました。

つづらせどうの生態系はこの環境でしか成立しないもので、世界的に見ても貴重な生態系であることは言うまでもありません。そのことに関しては国交相も十分理解していると思います。

であるならば、ダムを作りつつらせどうを試験冠水においても水に沈ませることは、とても野蛮なことであり、先進国がやるべきことでは無いと指摘します。野生生物特有の生態系に手を入れてしまえば元に戻すのにとても長い時間がかかり、ともすれば2度と元に戻らない可能性さえあります。そのような貴重な野生生物が生きる環境を弄ぶようなことは言語道断と言わざるを得ません。

そもそもダムを建設することで水害を防ぐことは出来ないことは国交相も認めています。であるにも関わらず世界的に見ても貴重な野生生物を犠牲にしてまで建設しなければならないのでしょうか？

ダム建設を一旦諦めた時、本来ならば進めてこなければならなかった治水政策を怠った結果があのような大洪水を引き起こす原因になったのでは無いでしょうか？そのような考察も行わずダム建設を強引に推し進めるやり方は野蛮でしかありません。

昨年12月23日に行われた新たな流水ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み第二回会議において、各自治体代表の言葉の中で共通して聞かれていたことは「山の環境を整えてほしい」ということでした。これが真実なのでは無いでしょうか？

ダムを作っても洪水は起こります。ダムがあれば防げるものではありません。

そして現在のように山が荒れ、山自体が持つ保水能力を崩壊させ続ければ、ダムがあることで更なる悲劇を生むことになるのでは無いでしょうか？その時、誰が責任を取るのでしょうか？

「ダムを作っても清流は守れる」と仰られますが、仮に守ることができなかった場合ダムは撤去するのでしょうか？

川辺川ダムと同じような穴あきダムである立野ダムの試験冠水の後白川下流で濁りが続いています。建設予定の川辺川ダムより規模の小さい立野ダムですら濁りが長い時間続いています。明らかに川の様子が変わりました。立野ダムを見て、それでも「川辺川ダムは球磨川の清流を守れる」と言えるのでしょうか？本当にそう思っていらっしゃるのであればそれはただの無責任です。多額の税金を使って建設するべきものではありません。

現在川辺川ダム事業費は 5000 億円に迫ろうとしています。果たして今それだけ多額の税金を使って行うべきことでしょうか？

能登地震では道路の損壊でいまだに復興のフェーズに入れていません。人々が生きる手段すらいまだに担保されていません。復旧作業には多くの人手が必要です。土木事業者が必要なのは明らかです。今、能登復興を後回しにして川辺川ダムを建設するべき時でしょうか？

これまで怠ってきた治水事業に注力し、能登半島の復興に予算と技術を使うべきだと考えます。

今回の公述で小さいけれど多くの意見が出たと思います。小さい声を無視し続けることは民主主義に反するやり方です。

今一度ダム建設は白紙に戻し本当に球磨川の環境を守れる治水に舵を切られることを切

に願います。